まつやま子どもの想い作文コンクール

優秀賞受賞作品

力強い生き方

松山市立生石小学校　４年

中野　優（なかの　ゆう）

学校の図書館で乙武ひろたださんのことを知りました。うでも足もなく、車いすにすわっている乙武さんの写真はすべて笑顔でした。そして私は、そんな乙武さんをもっと知りたいと思いました。

私が毎日過ごしている生活は、どれをとっても、五体満足の体からなりたっているものです。ご飯を食べることもおもいっきり、水泳を続けられることも、それを私は当たり前だと思っていました。

私は、生活をしている中で車いすに乗った人や体に障害をもった人に出会うと「大丈夫かな」とか「かわいそうだな」と思ったこともありました。でも乙武さんのことを知って、私は今までの自分の考えが正しいものとは思えなくなりました。

乙武さんは自分の障害を「少し不便な時はある」と表現しています。なによりすごいところは、すべてのことをあきらめません。強い自分の心を信じて、前に進める人だと私は思います。もしかすると、乙武さんの言う不便にあたるようなことがあれば、少しお手伝いすると乙武さんは喜ぶかもしれません。しかし、私が思ってしまった「かわいそう」の気持ちはめいわくなのではないかと思いました。

元気な自分の体と心にとても感謝しています。でも、幸せのかたちはそれぞれちがい自分がどんなふうに考えて生きるかで大きく変わってくることを勉強しました。

「かわいそう」だと思った私は、自分の知らない気持ちの中で、その人達を勝手に「かわいそうな人」にしていました。

乙武さんの笑顔は力強く生きているしょうこのようなものだと思いました。私も力強く進むことによって、また一生けん命な姿を見せることによって何かを伝えていける人になりたいと強く思いました。